

## 第 30 回 酪農諮問委員会 実施概要

1. 開催日時 2025 年 11 月 5 日（水）14:00～17:00

2. 会 場 雪印メグミルク（株）本社会議室

3. 出 席 者

諮問委員 坂井 正喜（元大樹町農業協同組合 代表理事組合長）

相馬 義樹（元全国酪農青年女性会議 監事）

伊藤 強（元東北生乳販売農業協同組合連合会 代表理事専務）

鈴木 宣弘（東京大学大学院農学生命科学研究科 特任教授）

矢坂 雅充（公益財団法人日本農業研究所 客員研究員）

清水池 義治（北海道大学大学院農学研究院 准教授）

当 社 佐藤雅俊代表取締役社長、田川福彦代表取締役副社長、戸高聖樹代表取締役副社長、若林偉彦執行役員、津田知亮執行役員、野村俊夫専任部長、事務局（酪農総合研究所）

4. 開催内容

今回の諮問テーマは「酪農現場における環境負荷低減の取り組みとクロスコンプライアンス導入について考える」とし、6名の諮問委員の皆様からご意見を伺いました。

まずは、生乳需給安定クロスコンプライアンスの導入を振り返り、脱脂粉乳とバターの跛行性による脱脂粉乳在庫の増加の問題解決に向け、国内の酪農乳業者が一丸となって取り組んでいくための方策や、乳製品の諸外国との価格差を踏まえた輸出の可能性等について議論しました。

次に環境負荷低減のクロスコンプライアンスでは、生産現場の現状や経営環境を踏まえながら議論を進め、委員からは酪農技術や姿勢等酪農家は常に現状をより向上させることを目指さなくてはいけないという意見や、国に対してクロスコンプライアンスの有用性や環境規制に対する姿勢をもっと示して欲しいという意見もありました。当社からは、持続可能な酪農乳業の実現に向け、酪農現場と共に環境負荷低減を考えていくための取り組みを進めていることを紹介し、より議論を深めました。

さらに、輸入品も含めた乳量や今後の人口動態を踏まえた真の生乳需要量の把握と、生乳需要量を踏まえた入口対策がなくては国内自給率向上に繋がらないとの危機感を共有し、酪肉近の生産目標数量等についての議論も展開されました。

